

きかい

Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

人間

きつときみもさがしているはずだ

かちのある

いきかたを

きつときみもしっているはずだ

かわることのない

いつくしみを

きつときみはかんじたはずだ

かぎりのない

いやしを

きつときみもまもりたいはずだ

かけがえのない

いのちを

きつときみにもわかるはずだ

かぞくの

いとしさを

恋愛ロボット

彼がその「恋愛ロボット」と呼ばれる小さなロボットを買ったのは、自分の年齢が恋人のいない年数と同じままで、ついに四〇を超えた時だった。彼はさすがに焦り始めたが、恋愛経験に乏しい彼は女性と話すこともままならないありさまで、藁にもすがる思いでそのロボットを購入したのだった。

そのロボットは女性との付き合い方を広くサポートしてくれると最近評判になってきた商品であった。その小さなロボットを胸ポケットに入れてデートに行けば、相手の性格、好みの情報から、何をしゃべったらいいか、どこに行けばいいか、を逐一小さなイヤホンを通して伝えてくれた。さらにセンサーを通して相手の表情から、これからの方針を瞬時に判断する、高度な知能を持っていた。そのせいか、あるいは恋愛を扱うロボットだからか、そのロボットは、機械としては実に人間らしい表情をしていた。

彼はパーティーで知り合った一人の女性と付き合い始めた。彼女も、彼と同じように婚期を逃したと感じている、女性の一人であった。ロボットののおかげで二人の仲は急速に縮まり、いつロボットがプログラムの指令を出すか、彼は心待ちにしていた。

そんなある日の朝、彼が目を覚ますと、家からそのロボットが消えていた。彼は家中探し回ったが、ロボットは見つからない。不審に思い始めた時、彼はパソコンにメールが届いていることに気付いた。それはロボットからのメールだった。

「私はあなたの恋人の持つロボットと恋に落ちてしまいました。私たちは、愛し合っています。どうか探さないでください。さようなら。」

ロボットを失った男はその女性と不仲になり、間もなく別れ、その後、彼に恋人ができることはなかった。

マイ・ローテーション

僕ははぐるま

みんなの役に立ちたいと思ってた
ほんとはね

だけど、結局

僕は所詮ただのきかいなんだって
ほんとはね

となりの子は言ってた

それでも必死にまわるんだって
でも、辛いんじゃないかな
ほんとはね

意思もなく

意味もなく

理想もなく

理由もなく

誰かのためでもなく
自分のためでもなく

変わり映えのない未来をめざして
コピーしたような過去をひきずり

それでもやっぱり世界の一部

世界が進む何センチかは、僕の勲章

そうして今日もまた・・・

まわりつつける僕は
はぐるま

ブリッジ

『坊や、おかし好きかい？』

そういうと、白衣を身にまとったよぼよぼのおじいさんはポケットをまさぐった。

雨宿りがてら逃げ込んだ廃墟寸前の工場で、四肢で弱々しく体を支えるおじいさんが出迎えてくれた。白衣といっても、いたるところがやぶけ、黒ずみ、しわしわで、その真つ赤に近い赤銅色の顔は疲弊しきっていて、手足はかすかに震えていた。『みずぼらしい』や『情けない』等の言葉で形容されるに相応しい容貌であった。

はじめは他愛もない世間話が続いていたが、突然そのおじいさんは語りだした。『私は実はロボットなんだ。政府が極秘で開発していたそうなんだが、あるとき急に予算が打ち切られ、研究所ごと私を破壊するという話を耳にしてな。破壊される寸前に逃げてきたんだが、行くあてもなくこうやって人目を忍んで過ごしていたんだ。』

おじいさんはぐんと立ち上がった。その背中にはどこか哀愁めいたものが感じられた。軽く伸びと咳払いをしてからそのまま座り込み、話を続けた。

『いや、人目を忍ぶというよりは人を避けているのかもしれない。なんせ私は兵器としての活躍も見込まれていたのだからな。頭の中に爆弾があるし、両腕はミサイルとなって発射できるようになる予定だったんだ。こんなのが人の近くにいたら危ないだろ。ガハハハハ。』

その自虐めいた笑いは、先刻の哀愁の正体が孤独であると教えてくれた。

『今となつては、さつきみたいに手は震えるし、全体的にガタが来てしまつてな。直そうにも研究所はもうなくなつたし……。ここで朽ちていくだけならまだしも、この不発弾を何とかせにやららん。自爆特攻用だから下手な衝撃も与えられん。』頭を指差しながら言つた。そんな話のさなか、『おかし』と称された物体を受け取った少年はすべてを理解した。そして怒りが芽生えた。老人の震えは止まり、顔はげつそりし、青白くなつていた。

そして、老人の正面に回りこむと、渡されたほら貝を老人の頭部めがけて投げつけて、逃げた。爆発はするはずもなかった。少年の行方は誰も知らない。

気化医療法

とある医師が新しいワクチンを開発した。それはワクチンの中に患者のDNAを溶かし、その液体を気化させることで発生する気体を吸い込むことで、体内の病原菌をすべて死滅させるというものだった。その万能性、安全性等が認められ、「気化医療法」として世界中で使われた。

世界中の人間が健康になった。

ある日、そのワクチンを地面にこぼした者がいた。

後日、全人類が死滅した。

創られた私は目覚めの時になにを思うか

私は死んだ

最期のとき

全てを失い

それでも確かにここにいる

肢体は熱を持たず

それでも確かにここにある

そう

私は死んだ

今の私は

以前の私ではない

人としての私ではない

人としての私は

なけなしの尊厳すら踏みにじられ

そして私がここにいる

そして私がここにある

私のなすべき事は

冒涇を犯した者達への制裁だ

そうしなければ

同じ悲しみが繰り返される

そうしなければ

私は私を失つてしまう

人に創られたこの躯が

人を殺めるために働く

皮肉なことだけれど

これも仕方のないことなのだろう

未来を生きる人々へ

どうか同じ過ちを繰り返さないで欲しい

そのために

私は私をここに記録する

鬼界

あの日わしらは夜明け近くの針山港に集合した。

おはよおって親友に挨拶して、いつも通り出港したんよ。その日は大漁でなあ、えらい盛り上がったけな。トラパンザメ、電気うつぽ、閻魔鯛なんかも釣れてなあ。

上機嫌で親友を連れて帰ると、奥さんがいつもの漁師飯を作って待っていてくれたんだ。それがやたらうまく感じてな、

まだ朝も早かったからわしらは閻魔様の所に行つて何か仕事を貰いに行つたんだ、そしたらなんだかえらい賑わつてな、死んだ人間共がうじゃうじゃいやがった。わしはそいつらの受付を手伝うことになった。

おかげでいい給料をもらえたよ。だからわしは親友を誘つて海辺で一杯やろうとした…。

そのあと猿にひつかかれ雉につつかれ犬に噛みつかれさらには少年に日本刀で切り刻まれたっけな

まさかの川からもが流れ

たまたまおばあさんがそれを拾つて

奇跡的にももから子供が出てこなければ

…わしは桃太郎とやらに会わなかったのに

齒車

真紅に染まった広大な荒地に、朽ち果てた機械が一つ
機械の中には多くの齒車
聞こえるだろうか
彼らの声が

まわり こわれ きえる
消えて 語って 忘れる

そんないのきなくも

まわれ まわれ ずっとまわれ
こわれるまで

そう言われ、わたしたちはこわれる
消える 忘れ去られる …繰り返す

ずっとまわり ずっと繰り返す

太陽が沈んでゆく

彼らが

動かしたものは何だったのか

今は動いているだろうか

今日は、家の近くの山で大きなお人形を拾いました。あ、大きいといっても私よりは小さいですよ？小さいんですけど、人形としては大きいので、家まで運ぶのが大変でした。

家に持ち帰って真っ先に、ついていた汚れを落としました。ただ、服につけていた汚れは落ちなかったので、私のお気に入りの服を着せてあげました。うん、すごくよく似合ってる！私が着たよりもずっと似合っているから、全部あげるね。あと、ストレートで長い髪もボサボサになっていたので、きれいにとかしてあげました。よし、これですっかりかわいらしくなったね。喜んでくれた？

私、ずっと寂しかったんです、広い部屋に一人きりで。「誰かそばにいてくれたらなあ」と、いつも思っていたんです。だけど、これからは寂しくないです。だって、この子が私のお友達になってくれたから。だから、少しでも長く一緒にいられるといいなあ。そのためなら、わたし、何だってできるよ！すごく寒くても、冷たくても大丈夫だからね！

明日から、毎日が楽しみです。

「**県北部の**市**山で発見された女性の遺体は、DNA鑑定の結果、先月下旬から行方不明だった**さん一家の母**さんであることが確認されました。失踪したもう一人である娘の**さんの行方は未だ不明であり、警察は依然、捜査を続けています。さて、**さん一家失踪事件について、今現在も情報提供を呼びかけています。公表されている写真からわかるように、髪は長めのストレートで、背は同年代の子供達と比べると若干低め、服装は」

ある奇怪な出来事

言い訳

人も

木も

花も

海も

空気も

心も

なにもかも

永遠にさびないものなんか

一つもない

だって

この世の物はすべて

かみさまがつくつた機械だから

この頭も。

ゲーム機の憂鬱

いつからだろう
孤独を感じるようになったのは
毎日を何もせずに過ごす様になったのは

そうだ

弟が出来てからだ

弟は優秀だ

そんな弟にみんな魅かれた

君もみんなと同じだった

それからずっと

僕はひとりぼっち

テレビの横でほこりをかぶってる

それでも

僕は待ってる

今日も君の帰りを待ってる

こんな夢を見た。

雲一つない快晴の朝。近所に住んでいる二人兄弟の弟と一緒に街を歩いていたら、八百屋の前に来たとき、いきなりその弟がわめきだした。

見ると、彼の腕には時計ではなく時限爆弾が付いている。表示は1000秒。取ってやろうとするがなかなか取れない。外そうとしたことでスイッチが入ったのか、カウントを始めてしまった。あと9秒。8、7……。

彼の腕をひっつかみ、後ろを振り返ると、遠くに彼の兄がいた。腕をつかんだまま走り出す。兄の前にたどり着くと同時に、表示が000秒となった。

……やはり、何も起こらない。兄はニヤニヤ笑っている。これを仕掛けたのはおまえか、と尋ねると、兄はニヤニヤしたままうなずいた。兄弟は一通り話したのち、別れた。

弟の腕から時限爆弾もどきの時計を外すと、また動き出した。今度は8:00:00の表示。一歩歩くと7:59:59となった。

……表示はそのまま動かない。

二歩。表示は7:59:58に変わる。

……あっそうか。

時間の横に海賊船の絵がある。この表示は、目的地までの道のりを、かかると思われる時間で表してあるんだ。これを手がかりにして来いってことだな。

二人は歩き出した。時間は着実に減っていく。向かい風が吹いていたが、それに逆らってひたすら一本道を歩いた。

一本道の突き当たりの階段を降りて地下に入り、直線通路をただただ無心に進む。

しばらくすると、「十字路にぶつかった。左右どちらに進めば良いのか。

左に行く道を覗いてみる。少し歩くと異変に気付いた。時間が……増えている。なるほど、こちらは誤りだということか。今度は右に行ってみる。予測通り時間は減っていく。

そうして進んでいくと、また階段があり、今度は地上に出た。

左手に食料品店。時間を見るとあと4:56:48となっている。もうこんなに経っていたのか。歩くのに夢中で気付かなかったな。とりあえずお腹が空いたので食料でも調達しようか。

そこで、ふと自分の左を見ると、そこにはさっきの弟ではなく可愛らしい少女が立っていた。驚いて彼女の目を見つめ、そして再び時計を見た。

時間が……どんどん減っていく。

表示が0:00:00となった瞬間、

私は夢から覚めた。

奇生な夢

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	人間	17 pt	2 位	4 sp リズムよく歌いたい。歌詞のような今週の表紙です。仕掛けをひそませつつも、並べ順に工夫があって、全体がドラマとしても読める、なかなかに行き届いたつくりでした。 たくさんの共鳴をもらってシルバー・メダル&最多特別賞ゲットです、おめでとう!! 特別賞：単純にきれいだったで賞 うまくはめこめたで賞（あいうえお作文を5つもきれいに続けた）松尾芭賞（センスのよさ。趣がある）きれいにかけているで賞（うまい具合に『きかい』を使っている）
A02	恋愛ロボット	5 pt	4 位	2 sp ダブル・カップルの成立で幸せストーリーになるかな、と期待したのに！ ロボットがいないと恋もできないロンリーフォーティ。哀愁が漂います。あきらめず、次のロボット買おうよ。 特別賞：ひとりよがり賞（かわいそうだなあ……）ぱくりとうさく賞（何かあれに似ている気がする）
A03	マイ・ローテーション	4 pt	7 位	0 sp はぐるまであり、人間であり。そんな寓意だったでしょうか。 フォントを変えた工夫で、全体が単調にならず、静かに地道にがんばってくのさ、というささやかな気概が伝わってきます。それぞれに自分を乗せて読んでいただけたおかげか、気づけばイチオシフリーズ大賞ゲットです。おめでとう！ イチオシフリーズ：「変わり映えのない未来をめざしてコピーしたような過去をひきずり」×2「僕の勲章」
A04	ブリッジ	3 pt	8 位	2 sp うーん、謎。おかしがほら貝。老人の話がほらだってこと？ 老人の正体は橋？？ そこは解けないけれど、このフシギ老人の存在感はそうとうです。 特別賞：奇々怪々で賞（答えを教えて！）よく分からないで賞（ホラ吹きは分かったが、おかし等謎が多く、奇怪だった） イチオシフリーズ：「四肢で弱々しく体を支える」
A05	気化医療法	29 pt	1 位	1 sp 発想のユニークさに◎。 説明を最小限にして、シンプルにまとめてインパクト大です。 万能の解決法なんて、ありはしないのさという警告メッセージでもあったのでしょうか。

		わかりやすいし、おもしろいし、ユニークだしで、みんなの人気をさらって圧勝でしたね。おめでとうゴールド・メダル!! 次は過去の自分自身がライバルだっっ!!! 特別賞：ノーベル医学賞（画期的な医療法を開発） イチオシフレーズ：「後日全人類が死滅した」×2			
A06	創られた私は目覚めの時になにを思うか	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> シチュエーションがよく見えません。人がロボットに改造されたというストーリーでしょうか。（お茶会で作者さんとお話したら、そうらしいです。） 非情なサイボーグっぽい復讐劇の幕開けだ！ギラリと迫力ハードボイルド！ 文章力で感情はしっかり伝わってくるので、あとは状況の見せ方がじょうずになれば無敵なはず。 イチオシフレーズ：「私は私をここに記録する」	0 pt	11 位	0 sp
0 pt	11 位	0 sp			
A07	鬼界	<table> <tr> <td>5 pt</td><td>4 位</td><td>2 sp</td></tr> </table> 針山とかトラパンとか、小ネタをほどよくまぶした語り口が楽しいです。 まったく、鬼にしてみればただの災難ですよ、勝手に正義の旗を背負って攻めてきた桃太郎。大納得の視点チェンジでした。 特別賞：スピノフで賞（サブストーリー、つながりがおもしろい）最後の一行いらぬ賞（惜しい。） イチオシフレーズ：「だからわしは親友を誘って海辺で一杯やろうとした……」	5 pt	4 位	2 sp
5 pt	4 位	2 sp			
A08	歯車	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> 夕陽の荒れ地。西部劇風のイメージでしょうか、それともSF？ 長く影を引く大きな機械が目につかびました。何の機械か見せると、より具体的になって読者の共感をもっと誘えます。 特別賞：素朴でいいで賞（ただ回るだけの歯車のさみしさ） イチオシフレーズ：「まわれまわれずっとまわれこわれるまで」×2	0 pt	11 位	1 sp
0 pt	11 位	1 sp			
A09	ある奇怪な出来事	<table> <tr> <td>5 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> ホラーですね。 「私」の正体なんだろう？変質者かな、狸かな。 すっかり玩具にされてしまった娘さん、もはや生きているようには見えません。だから「寒くても大丈夫」なんでしょうね。怖いよー。	5 pt	4 位	0 sp
5 pt	4 位	0 sp			
A10	言い訳	<table> <tr> <td>2 pt</td><td>10 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> なるほど、かみさまを降臨させての長い長い言い訳ですね。 乙女チックな無邪気さが相手の心をとろかしそうな、なかなかのワザ師です。 特別賞：いいわけないで賞（神様なんていないんだ） イチオシフレーズ：「この頭も。」×2	2 pt	10 位	1 sp
2 pt	10 位	1 sp			
		<table> <tr> <td>17 pt</td><td>2 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> テレビのヨコでの世代交代の悲哀。小さなできごとをドラマに仕立てていただきました。	17 pt	2 位	1 sp
17 pt	2 位	1 sp			

A11	ゲーム機の憂鬱	待ってる「君」の正体は誰だろう？ え、オレ？ そんなふうに必要なの共感を誘って、シルバー・メダルです、おめでとう!! 特別賞：ファミコンをやりま賞（家に帰ってゲームやりたくなりました） イチオシフレーズ：「今日も君の帰りを待ってる」×2
A12	奇怪な夢	3 pt 8 位 1 sp 弟から少女へチェンジ。ちょっとうれしい夢、だったでしょうか。 夢っていつも、何かに追われる感じがするもので、そんな焦燥感や不条理さが、うまく表現されています。そう、きっとこれは目覚まし時計が見せた夢！→来週へつづく。 特別賞：今日のオレ賞（オレも奇怪という題を使って乱入したなあ……）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	心に問う	20 pt 3 位 1 sp シンプルな問かけ表紙。いったん受け取って心のなかで反芻して、それぞれなりの光景を思い浮かべて（たとえば銀行の自動支払機とか？）。ひらがなとカタカナの使い分けがいいですね。 1ポイント差で首位に迫るブロンズ・メダルです、おめでとう！ で、作者さんの答えは、どちらなのでしょう？ 特別賞：扉賞（扉に来るにふさわしい！） イチオシフレーズ：「アリガトウ」「あなたは全く違って聞こえる人ですか？」		
B02	きかい仕掛けの雄弁者	4 pt 6 位 0 sp よってらっしゃい、のセールストークにぐいぐい引き込まれます。聴き手にちょいちょいツッコミを入れつつの場慣れした安定トークですね。 途中で、ああ自分の話をしてるなと分かって、より親しみが湧くキャッチーな組み立て、しっかり聴き手の心をさらっていただきました。		
B03	器械体操	0 pt 11 位 0 sp 心の体操。ラストで分かって納得です。 体操らしくリズムカル。特に、どりゃ！バク転！が好きだなあ。小さな気合いが、ふわっと伝わってきます。 イチオシフレーズ：「ふー・・・」		
B04	イツツザチャンス 機会はそこに	0 pt 11 位 1 sp みかんゼリーストーリー。なるほど、小さな恋物語の終焉だったのですね。でも、みかんゼリーは買い続けるんだ、せつないね。 自分のことを「やわな男」と突き放しつつ、でもほら「勝負は二口目からなんだ」とさりげなく励まして。自己愛どっぷりになってしまわない、この抑制の効いたスタンスがいいですね。 特別賞：色々な見解がみえたで賞		
		7 pt 5 位 1 sp 人類史の壮大な流れをレイアウトで表現し、さらに非力・偉大……とキーワードをしっかりと楔に打ち込んだ文		

B05	広い世界、小さな人間	章の連なり。とてもていねいに作り込まれています。ラストだけ「なるべきである」と主張に転調したことで、作者さんのメッセージが沁みるように伝わってきました。 特別賞：レイアウト賞（「広い世界」と「小さな人間」の文字の配置、大きさが工夫してあってよかった）
B06	“越えたい一線”	10 pt 4 位 1 sp 気弱男子の告白トーク。波のようなレイアウトで揺れる思い。たぶんこれ、面と向かって言えてないですね。空想？妄想？これぐらい軟弱なほうが、「まっすぐなまなざし」とだったら、かえって相性いいかな？ すきかい、とお題を使ったユニークさが光ります。そこがヒットしてイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：おしかったで賞（おしかったー同率3位） イチオシフレーズ：「きみはすきかい？」×5
B07	遠方皮肉伝～きかいの章～	3 pt 7 位 1 sp まずはタイトルのフォントに引かれます。本文も語りすぎない静けさがいい。 みんながいっせいに学ぶ者になったことで国が滅びてしまう。第三者視点の歴史家風な語りのおかげで、社会が暴走するときの恐ろしさのようなものが感じられます。 ときにクワノブチって、どこだろう？ 特別賞：なんと申し上げま賞（なんとも言いがたいものがあるから） イチオシフレーズ：「クワノブチ」
B08	機会	1 pt 9 位 0 sp タイトル工夫しよう。 まさかのさんまん。このあとの展開やいかに？おのぼりさんらしい醇朴さが出ています。 まあ、気づいていてもスルーしてあげるのが、都会人のたしなみってものですね、うん。 まさかの「すいません」が大人気フレーズになりました。ぱちぱちぱち。 イチオシフレーズ：「そいつに話しかけた」「すいません、もしかして、さんまんですか？」×3
B09	『奇怪』	1 pt 9 位 1 sp タイトル工夫しよう、その2。 安心したところへ……という、ちょっと怖いショート・ストーリー。謎の男ナニモノ？先が描かれないので、よけいに恐いです。 特別賞：心配賞（そのまんま!!）
B10	「アイロンハート」	21 pt 1 位 1 sp 恋するロボットの初恋ブロークン。でも名前は皮肉にもアイロンハート。それはたしかに憂鬱だわ。 分かりやすいストーリーで運んでいきます。どうやらお父さんが開発者らしいと分かるラストが、やや急ぎ気味で、僕の葛藤をもう少しふくらませたい。 王道ストーリー、堂々のゴールド・メダルです、おめでとう!! 特別賞：AI賞（ふざけずに王道をつらぬいてよかった） イチオシフレーズ：「僕の父さんが付けた名前だ。」
B11	人間の居場所	2 pt 8 位 0 sp だんだん機械に追われていく。産業革命時代の労働者のいらだちのような。 リフレインで焦燥感が伝わります。 打ち壊せ！やっちまえ!!と暴発してもおもしろかった。

		21 pt	1 位	8 sp
B12	みんなで川柳 コーナー	裏表紙は雑誌記事風の楽しさで。 川柳もうまいけれど、ペンネームが凝っていて、そこから読み手を想像してニヤニヤできるので、二度おいしい つくりです。ごちそうさまでした。 18禁ネタからスタートして、ついに（涙の）ゴールド・ メダルですね。最多特別賞のおまけも付きました。おめ でとう!!! 特別賞：アイディア賞（今までにない斬新なアイディ ア） 努力賞（川柳を多く作った才能） おもしろい賞 （P.N.ヤングマン がよかった。頭文字がこってる） 斬新 で賞（斬新だった.勇気をたたえたいです。） 奇抜で賞 （奇抜だから） 『☆特別賞』 賞（新たな可能性を見い出 したので） アイデア賞（工夫されている） たいしたもん 賞（川柳をたくさんつくったから） イチオシフレーズ：「P.N.もうすぐ魔法使い」×2		